

Aグループ：テーマ「学生生活と宝塚市の地域行政」

まず、我々が市に質問したのは、食事できる場所だったり、遊ぶところだったり、大型スーパーというのが、住むところだったりというのが欲しいという提案をしました。

それと、あと、就職先の問題とかも出ました。

相談できるセンターとかがあるという話をいただいたんですけど、僕ら学生は知らなかったんですよ。それとか、甲子園大学の学生が参加してやるという取り組みがあったらしいんですけど、そういうのも知らなかったのが、それで、僕たちが出した結論というか考えが、地域との連携が取れてないと感じました。

なので、地域との連携を高めるために、SNSだったり、市から役員の方が学校に来てくださったりというのを、お願いしたいなと思いました。

(「ピンチヒッター行きます」の声あり)

まず、甲子園大学生というのは、宝塚駅周辺で生活していることが多くて、やっぱり、私たち全員宝塚に住んでなくて、明石とかから来てる人も多くって、大学に行くのにお金がかかるんですけど、でも宝塚市に住むよりは安く済むんで、半年12万円ぐらいかけて来てるんですけど、でも、宝塚市に、宝塚市周辺とかに安く住めたら、もっと宝塚市に長く滞在することもできるし、遊ぶ場所があれば、もっと学生が長くそこに滞在することができるんで、あの、その長くいるに当たって、滞在するに当たって、スーパーとか、遊ぶ場所とか、コンビニとかが少ないっていう話になりました。

駅前はずいぶん土地代が高くて、遊ぶ場所がないので、例えば小林とか西谷に学生が住みやすく、住めるところができると、スーパーなどの商業施設とうまいこと絡まって、定期代よりも安く住めるように、そこに行政が加わってもらいたいっていう話になりました。

住むところに当たっては、そういう話になって、それ以外で就職にかかわる話とかもさせてもらって、その、就職センターがあるってさっき言ってもらったんですけど、就職センターがあるっていう情報とかが、学校にあんまり、学校を通じて学生とかに回ってこないし、歌劇とか文化的な部分も、あんまり回ってこないっていうのが現状なんで……。

総じていうと、僕たちのグループで出たキーワードは、情報共有ですね。

その情報共有の手段として、SNSを使ったり、行政と学校がコラボして、情報共有をすることによって、今まで宝塚市が行ってきた、この行政のイベントとかが伝わると、参加しやすくなる。

情報がたくさん回って来れば、それだけ参加しやすくなるし、参加する回数がふえたら、もっとその、空氣的にも、より、いろんな人が参加しやすくなってくると思うので、やっぱりその、大学側の、公式のツイッターであったり、インスタグラ

ムであったりというのを、もうちょっと積極的に活発にさせていって、それでその、宝塚市のほうにもSNSの開設というか、をお願いできたら、情報の拡散によって、大学生活も豊かになるし、住む場所とか就職先の情報も流れてくれば、より住みやすくもなるし、学生が宝塚市に住むという選択ができる補助になるかと思います。

私たちが知らないだけっていうことが多くて、びっくりしました。

それで、その知らないことをもっと情報共有できたらいいなっていう話になりました。

以上です。

Bグループ：テーマ「管理栄養士が宝塚市にかかわること」

Bグループのテーマが、管理栄養士が宝塚市にかかわることということで、管理栄養士を目指している、私たち甲子園大学の栄養学部の学生が、どのように宝塚市とかかわっていけるかというのを、意見交換させていただきました。

それで、その意見交換の中で出てきた内容なんですけど、宝塚市が主催していただいて、レシコンテストなどをしていただくと、地産地消につながっていったり、宝塚の西谷地域で、農業があるので、そちらの食材などを使用して、することで、地域の皆さんに食育を進めていけるんじゃないかという話になりました。

それで、私たち栄養学部栄養学科が、西谷地域などに出ていく機会というのがなくって、農業のほうの内容を、ちょっと知る機会もなかったのも、そういうことを、ちょっと、ツアーじゃないですけども、市の、行政の方たちが主催していただいて、参加者を募ってやっていければ、そっちの、農業や私たちが普段見えない景色を見て、そういうのも、学生にとってはすごく刺激になるんじゃないかと考えております。

もう一つは、図書館などで、栄養のコーナーを掲示するという意見が出まして、専門書などを、わざわざ図書館の本棚から出してくるということは、あんまりないようなので、わかりやすいリーフレットやパンフレットを、市の図書館に掲示していただいて、それで、地域の皆さんに見ていただいて、手に取っていただけるようなものを、甲子園大学とコラボしてやっていけたらと思っております。

それで、そちらで見ていただいた内容で、もっと深く専門書を読みたいっていう地域の方がいらっしゃれば、大学のほうに導いて、見ていただければ、学校のほうにも足を運んでいただける機会ってというのがふえるのじゃないかと思っております。

最後になんですけど、学生のみなどと話をしてて、管理栄養士っていう職は、ちょっと、認知度がまだ低くて、どのような内容で仕事をしていくかというのが知られていないということになったので、例えばなんですけども、保育園や社会福祉施設などに足を運べる機会を作っていただければ、もっと市とのかかわり方や、

働き方ってというのが、私たち自身もちょっとわかって、現地で実際に見ることでわかる内容ってたくさんあると思うので、そういう機会を行政の方たちがちょっと、コーディネーターとなって広げていただけたらうれしいなということになりました。

以上です。ありがとうございました。

Cグループ：テーマ「地域の農業と食品」

私たちCチームが話し合ったテーマは、地域の農業と食品についてです。

それで、農業ということで、宝塚市の農業についてを主に話し合いました。

まず、宝塚市の農業として、西谷地域の野菜が今、主に出されているということで、宝塚と聞いて、イメージするのが、やっぱり、歌劇とか芸術系のイメージが強く、宝塚イコール野菜とはあまりならないなという意見が出ました。

そこで、宝塚市と野菜っていうワードをどう結びつけるか、それで、西谷地域のものの食品の開発、実際に学内で、私たちフードデザイン学科は、商品開発を行いました。

ソーラーシェアリングという技術で育てたサツマイモを干し芋にしてそこから商品開発をするのを行いました。

その中で出たものが、「西谷の太陽を二度浴びたプリン」ということで、ソーラーシェアリングの光と、干し芋を干すときに浴びた光で、二度浴びたプリンというものや、ほかには、その食品開発のコンテストを学内で行ったときに、グランプリになりました干し芋ベーグルや、ほかには干し芋のグラタンや干し芋タルト、干し芋ラスク、干し芋のアップルパイなどいろいろ出ました。

その商品開発で大学とのコラボを宝塚市のほうで行ったら、宝塚市のPRにもなりますし、西谷地域の野菜のPRにもなりますし、甲子園大学のPRにもなるかと思えます。

そこで、若者をどう呼び込むかという話になりました。

若者を呼び込むにも、何かがないとやっぱり来ないと思うので、またそれも日帰りであるのか、永住なのかという話にもなりまして、それで、今回は日帰りでもらうというところを考えたら、食べ歩きなどという意見が出て、その食べ歩きとか、インスタ映えとかのものがふえると、若者たちに何度も足を運んでもらえるきっかけになるかなと思いました。

それで、先ほどの商品開発の話に戻りますと、商品開発で開発した料理を、宝塚市では、今、学校給食に力を入れているということで、給食にコラボのおかずを提供することによって、その、中学生とかの食育にもつながると思います。

そして、宝塚市の農業、西谷の農業と若者をどう結びつけるかというのも出ました。

来週あたりにサービスエリアが宝塚市の中でオープンするというので、その中でも宝塚市で育てたお米を使った料理が出されるということで、サービスエリアで若者に来てもらって、そこから西谷地域の農業ですとか、宝塚市の農業を広めていけばいいんじゃないかなと思います。

それで、西谷の農業と聞いて、宝塚と出るかどうかという話も出て、西谷地域とそもそも出していたのが、地元感を出すために西谷村という名前を残していたそうで、地元で出すのであれば西谷を使ったほうがいいと、でも全国で出すならば西谷より宝塚市というのを出したほうがいいんじゃないかという話も出ました。

それで、今回この意見交換会を体験して思ったことは、やっぱりこういう機会がふえることで、大学と宝塚市の結びつきが、こうやってふえたら、大学のPRにもなるし、地域活性にもこれからはつながっていくかなというのと思いました。

以上です。

Dグループ：テーマ「市のメンタルヘルス行政」

今からD班の意見交換会の内容を発表させていただきます。

まず、全体で話された内容が4つあるんですが、1つは宝塚市のメンタルヘルス活動の一環としてこれまで市と大学が協働で、特に幼い子どもを持つ母親を対象にしたきらきら子育て講座、それから子どもの心理・発達無料相談という、まあ子育て支援を大学で行ってきているんですが、市、宝塚市では発達障がい児だとかその親への支援として現在具体的にどういうことに取り組んでいるのかということをもまず1つ目、話をしたんですが、この支援をするような施設というのはもう既に存在していて、ただ存在はしているんですけども、なかなか周知ができずに、大学側で行っているその無料相談でもキャンセル待ちが発生して、なかなかその相談できないという親御さんがいるってところで、もうちょっとその支援、支援施設っていうのを周知して、それで、なおかつ、そのキャンセル待ちの方に対しての対応をするために、甲子園大と宝塚市でもうちょっと交流を深める必要があるんじゃないかっていう話になりました。

2つ目です。この、さきほど話した発達障がいとかのお子さんではなくて、今度、大人ですね、大人に対してはどういうことができるのかっていうことが話されました。それで一つ、大きなものとして、就労支援っていうものが必要なんではないかということが話題に上がりまして、この大人の発達障がいに対する支援っていうのは、あるんですけどもなかなか不十分なところもあって難しいっていうことなんですけれども、まあ、不十分ではあるけどやっぱり就労支援施設っていうのがもう既に存在して、利用している方もいらっしゃる。またその大人の発達障がいっていうのは結構気づくのが遅くて、会社に入ったりだとか、そういう場面で初めて気づくってところで、もうちょっと早く気づけるんじゃないかっていうところで、

宝塚市と企業の連携も必要だねっていうような意見が出ました。で、またその、今では、宝塚での就労支援施設っていうのは現在、2カ所と、で兵庫県下にも結構な割合であるというところもあるっていうので、これからまだまだ発展というか展開していく余地はあるのかなという話になりました。

そして、その、支援をするだけではなく、その方々に対する理解を深めることも必要ではないかっていう意見もありまして、講演会等開いて、発達障がいのお子さん、お子さんっていうか大人の発達障がい、大人なんだけど、その親に対してだとか、その周りの人に対しても理解を深めてもらおうっていうので、そういう講演会を開いたらいいんじゃないかっていうふうな話ができました。

3つ目ですが、宝塚市では同性のパートナーシップ宣言っていうものがありまして、これは、その、配偶者として結婚はできないので、配偶者と同様の権利を得るためにつくられたというもので、けどなかなか、そういうパートナーシップ宣言をする方はいらっしやらないようなので、それは何でかっていう話になると、やっぱり周知が足りていないんじゃないか、またその配偶者と同様の権利を得るという話だけでも、どういう権利なのかわからない人がいるんじゃないか。またその権利っていうのがなかなか制定できていないという話もありまして、これからもうちょっと周知して、しっかりその制度を整えていく必要があるんじゃないかという話になりました。

そして、その、LGBTっていうのがなかなか知らない方もいらっしやって、特に御年配の方だとかっていうのは理解が、理解を得るにはなかなか難しいので、そういう理解を得るようなセミナーだとか、あと学校、教育現場では授業で取り扱って、そのLGBTという理解を深めるっていう取り組みが必要だろうという話になりました。

最後に、4つ目が、おとしに市内の中学校2年生の女子生徒が転落死するという事件がありました。そこで、こういう事案が起こっていることに対して、教育現場では未然に防ぐ取り組みとしてどういうものがあるのか、行われているのかっていう話になったんですが、まず、その、小学校、済みません、ちょっと小学校だけかわからないんですが、こころとからだのアンケートという、その、いじめとかです、に対するアンケートを実施していると。それから自殺予防週間、自殺対策強化月間というものも実施されていて、また職員や市民に対してゲートキーパーというものを養成する取り組みも行われているというところで、結構、あの、宝塚市側としては結構取り組まれているほうではないのかなと、他と比べて、と思いました。

ただ、もう一つだけ、学生側からの意見で、これを大々的にやった場合、行きにくくなるんじゃないか、報告しにくいだとか、被害者、被害を受けている、いじめられている子が、先生やその他の保護者等に言いに行きにくいんじゃないかっていうところで、実施方法の見直しも必要なんではないかっていう話になりました。

最後に、これを4つ全て通して見えてきたものは、やはり宝塚市と甲子園大学、あとは宝塚市と企業での連携が必要で、啓発だけにはとどまらず、お互い共有することが大事だなという結論に至りました。

これで発表を終わります。

甲子園大学 中村秀雄学長：講評

甲子園大学の学長の中村と申します。

本日は、学生にこのような施設とこのような準備をしていただき、大変貴重な機会を与えて下さいましたことを、北野議長はじめ、世話をして下さいました藤岡議員、皆さん、議員の方々に御礼申し上げたいと思います。

3回生にとってはリクルートスーツを着てものを考えるいい訓練になったと思います。4つのグループを巡回して議論の様子を拝見しましたがけれども、学生もなかなかしゃべっているので安心しました。学生の諸君にとっては、知らない人が集まって、話をするとき、「ファシリテーター」はどういうふうに話を進めたらいいのか、ということのよい勉強にもなったと思います。

まず、きょう一番の収穫は、議員の皆様にも甲子園大学が何をしているのか、ということがわかってもらえたということと同時に、私共教員も含めて、甲子園大学も、この市が何をしているのかを、鳥瞰図的に見渡すことができ、その中で自分たちがしていることがどういう位置づけになるのか例えば、さっき心理のことが出ましたけれども、「きらきら子育て講座」をやっているということが、市全体の講座、機会の中で何%くらいに相当するんだろうか、というふうなことがよくわかったと思うんです。自分がどこにいるかということがわかる、ということは出発点としてとても大事だと思いました。

情報共有の欠如ということが言われましたが、まさにそのとおりです。市の方に見れば、市報に書いてあるじゃないか、市のホームページを見ればわかるじゃないか、と言われると思うんですけれども、宝塚市のホームページを、宝塚以外の市から来ている学生が見るということはおそらくないでしょう。恥ずかしながら西宮市民の私も宝塚市のホームページはこの話が出てからしか見たことがありません。「いかに情報を共有するか」、あるいは「共有できていないか」、ということに気がつくというのは大事なことだろうと思いました。

どこかのグループで、市報に「甲子園大学コーナー」を設けてもらって、定期的に情報を発信することはできないか、ということを書いていました。方法論はいろいろあると思いますが、そういうことを皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

甲子園大学と宝塚市が何かをしていくときのスタンスとして、私は2つあると思います。1つは、継続的なつながり、もう1つは個別のつながりです。継続的なつながりというのは、宝塚市は学生にとってどういうふうなことをしてくれるのか、

甲子園大学は宝塚市に対してどういうことができるのかという、流れの底にあるものが何か欲しいなと思ったわけです。

映画館とか宝塚劇場の話が出たんですけれども、映画館に学割があるとか、宝塚劇場には留学生がずいぶん安いお金で観られる機会がある、とかいうことは全く知りませんでした。私の教え子がボストン大学に留学していたんですけれども、コンサートホールは、市内の学生には25ドルで年間いつでも入れる切符をくれるのだそうです。あいていればどこの席でもいつでも、どんなコンサートにでも入れるというのです。例えば、宝塚でも映画館とか市内の多くの施設で、年間5千円払っておけば何回でも、席があいている限り行けるというふうな話があったら、学生はいつも何かないかなと思って探すと思うんですね。ちょっと虫のいい話をしましたけれども、継続的な供給がお互いからなければいけないと思いました。

もう1つは、単発でやるときに力を出すということです。いくさをするときには集中して攻撃をする、というのが勝つ方法と言われてはいますが、常に知識を蓄えておいて、実際にやるときには突破口を見つけて、そこを集中的に両方で攻めていくというふうなことをしなくてはいけないということです。

きょうが終わりではなくて、始まりとなって、今後、大学と宝塚市との間に何か流れができて、そして行事ができて、宝塚市民の皆さんに貢献することができるようになることを祈っております。きょうはありがとうございました。